

# はまかせ

第47号  
December 2025

静岡大学工学部  
<https://www.eng.shizuoka.ac.jp>

## 工学部の近況について

工学部長 福田 充宏

今年の夏は厳しい暑さが続き、ようやく秋の気配を感じたと思えば、あっという間に冬が近づいてきました。四季の移ろいが急ぎ足になり、「春と秋がなくなってしまうのでは」と感じるほどです。自然も社会も大きく変化する中、学生たちも日頃の学びや挑戦の積み重ねで日々成長しています。そのような学生の大学生活をサポートするよう、我々もいくつか新しいことに挑戦しています。

まず、国立大学法人浜松医科大学医学部と相互に交流と協力を促進し、教育・研究等における機能強化及びその事業の発展を図ることを目的として、学部間の包括協定を締結いたしました。この協定に基づき、共同の集中講義の開講や単位互換、ワークショップの開催など、教育面において多様な学生の学びを創出するとともに、研究面では、工学部の先生の研究室を浜松医科大学内に設置したりすることにより、これまで行われていた共同研究をさらに深化させることを予定しています。また、大学の構内では、(株)ソミクトランスフォーメーションと協力して、自動運転ロボット台車を運行します。将来的には荷役の運搬等に使用する予定ですが、まずは構内の建物間を自動で往復するところから始めます。このロボット台車の運用にあたっては、学生、教員、社会人からなるワーキンググループを立ち上げ、興味を持った学生による企画、課題発見、課題解決等のアクティブラーニングに使用していきます。ロボットが構内を動き回るような活気のあるキャンパスの雰囲気成熟するほか、その他の企業の実証実験の受入につながることを期待しています。その他、キャンパス内が明るくなるように、キッチンカーも構内に導入いたしました。



学生たちはクラブ活動でもがんばっています。ロボットファクトリーがレスキューロボットコンテストで優勝したり、ヒコーキ部が6年ぶりに鳥人間コンテストに出場したり、学生フォーミュラチームがEV部門で6位となったりと活躍したほか、探検部のラフティングチームは世界大会で3位になり、学生たちの活躍をたたえたいと思います。今後も、学生全員が充実した大学生活を送ることができるよう教職員一同努力して参ります。

## 保護者会

工学部学生委員長 関川 純哉

11月9日(日)、浜松キャンパスにおいて工学部保護者会が開催されました。当日はあいにくの雨模様となりましたが、同時開催されていた「テクノフェスタ in 浜松」の影響もあり、キャンパス内は多くの来場者でにぎわい、終日活気に満ちた雰囲気となりました。テクノフェスタでは、研究室公開展示、おもしろ実験、および模擬店などが催され、学生さんや教員による創意工夫に富んだ企画が多数ありました。

保護者会では、各学科に分かれて説明会が行われ、保護者の皆様を対象に、教育方針やカリキュラムの内容、学生生活の状況、さらには卒業後の進路や就職実績などについて、担当教員より説明がありました。今年度は工学部全体で約530名の保護者の皆様にご参加いただき盛況となりました。

たとえば、電気電子工学科の説明会では、1時間にわたり、学科での教育内容、電気電子工学系の技術者に関する需要が多いこと、就職先の現状、および就職に向けて取り組むべきことなどが紹介されました。説明会の最後には、保護者の皆様からのご質問にお答えする質疑応答の時間も設けられ、10分程度ではありましたが、活発な意見交換が行われ、保護者の皆様の関心の高さがうかがえました。

参加された保護者の皆様に浜松キャンパスまでお越しいただいたことに感謝申し上げます。また、これまで保護者会にご参加いただいたことのない保護者の皆様におかれましては、次の機会にはぜひご出席賜りますよう、お勧め申し上げます。テクノフェスタでの学生さんたちのいきいきとした姿や、保護者会での説明により工学部における教育内容と学生さんの卒業後の進路がどのように結びついているかをご理解いただくうえで、またとない有意義な機会になるものと存じます。皆様のご来場をお待ち申し上げております。

## CONTENTS

■工学部の近況について 工学部長 福田 充宏	1
■保護者会 工学部学生委員長 関川 純哉	1
■教員表彰1 電気電子工学科 道下 幸志	2
■教員表彰2 化学バイオ工学科 福原 長寿	2
■教員表彰3 電子物質科学科 久保野 敦史	2
■学生サークル表彰1 ヒコーキ部 前代表 雑賀 正大	3

■学生サークル表彰2 ロボットファクトリー 代表 宮崎 陽	3
■学生サークル表彰3 探検部ラフティングチーム 代表 小池 悠太	3
■医・工・情ワークショップ2025 機械工学科 瀧 冬華	3
■ホームカミングデー 浜松工業会 理事長 立岡 浩一	4
■オープンラボ棟完成 電子工学研究所 所長 青木 徹	4
■STARSプロジェクト 機械工学科 能見研究室 松崎 優作	4
■JABEE認定プログラムの終了 機械工学科・化学バイオ工学科	4

## 教員表彰1 2024年電気設備学会星野賞

電気電子工学科 道下 幸志

この度、電気設備学会より第18回星野賞を授与されました。同学会は、1980年に創設された学者・技術者で構成される会員組織の学術法人であり、現在、会員は約5000人です。星野賞は、電気設備学会の国際貢献又は電気設備の学術・技術に係る国際的に顕著な功績のあった会員などを顕彰する制度として創設されたものです。私の雷保護分野の主な国際貢献としては以下の3点になります。(1)2015年名古屋で行われた第5回APL(アジア雷保護会議)で実行委員長として会議を盛会に導いた。(2)CIGRE(国際大電力システム会議)において内部WGの議長を歴任した。(3)ICLP(雷保護に関する国際会議)において、これまで多くの論文を発表し、5回の座長の実績があり、殊に、2026年札幌で開催予定の第38回ICLPで実行委員長として、会議の運営準備等に尽力している。静岡大学に赴任以来、約35年間の研究活動が評価されたものであり、研究に取り組んだ研究室の学生さん、共同研究を実施して頂いた会社の皆様や、工学部の教職員の皆様など、多くの方々のご協力のお蔭であり皆様に深く感謝致しております。



もう一つの国際貢献は低圧電気設備と感電保護の分野の規格関連です。規格とは、製品やサービス、プロセスなどにおいて、品質を一定に保ち、互換性や安全性を確保するために設けられた基準や取り決めのことです。これにより、品質の向上や生産性の効率化、コスト削減などのメリットが生まれます。IEC(国際電気標準会議)/TC64(低圧電気設備及び感電保護)の国内委員長として、提案される多くの規格案の検討を行ってきました。また、電気設備技術基準の解釈の国際整合化の推進やIEC規格のJIS(日本産業規格)化にも貢献しました。規格関連の活動は、大学では評価されないものですが、地道な活動が評価され受賞に至ったことは大変名誉で有難い事と感謝しております。

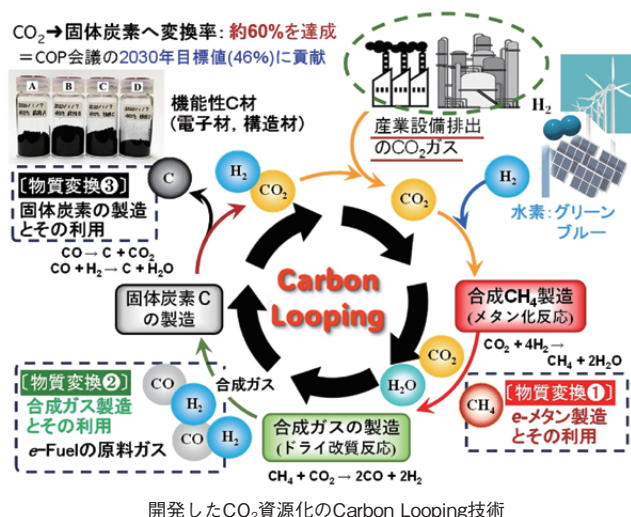
## 教員表彰2 石油学会賞(学術部門)を受賞

化学バイオ工学科 福原 長寿

石油学会は、石油や天然ガスなどのエネルギー資源に関する科学・技術・産業の発展を目的に1957年に設立された学会です。由緒あるこの学会の2024年度学会賞(学術部門)をこの度受賞させていただきました。受賞タイトルは、“構造体触媒を基軸にした温室効果ガスの資源変換に関する反応工学的研究”です。産業排出のCO<sub>2</sub>を有用なCH<sub>4</sub>資源や固体炭素材に効果的に変換するCarbon Looping技術(図を参照)を開発した業績が認められました。地球温暖化の抑制に貢献する技術です。本技術のポイントは、CO<sub>2</sub>処理のための構造体触媒(structured



学会賞の表彰楯と著者



catalyst)システムを開拓したことであり、これまで不可能であった革新的な物質変換を実現しました。この業績達成には研究室所属の多くの学生が関わったことは言うまでもなく、授賞式では皆で苦勞して蓄積した実験データの重みを感じながら、学会長から表彰楯を拝受した次第です。

## 教員表彰3 応用物理学会M&BE業績賞

電子物質科学科 久保野 敦史

このたび、応用物理学会M&BE業績賞を受賞いたしました。本賞は、独創的かつ先駆的な研究により、有機分子エレクトロニクスおよびバイオエレクトロニクス分野における新たな学術領域の開拓・発展に大きく貢献した研究者に授与されるものです。

受賞理由は『蒸着重合膜に関する基礎から応用に至る学際的な研究を長年にわたり推進し、特に重合プロセス、成膜素過程、分子配向制御、さらには応用技術に至るまで幅広い学術的貢献を重ねてきた。特に、蒸着法によるポリマーおよび長鎖有機分子の形成に関する研究は、有機エレクトロニクスの基礎となるだけでなく、強誘電性などの機能性を含めて議論をする上で重要な知見を与える研究成果として広く認知されており、関連分野の発展に大きく貢献してきた。これら研究業績を踏まえ、M&BE業績賞にふさわしいと判断した』とのことです。分子を「並べる」「つなげる」「動かす」研究——すなわち、有機薄膜や液晶における高次構造の制御・変調、ならびに形成過程の理論的検討——が評価されたものと、大変うれしく感じております。これらの成果は、ひとえに学生諸氏の努力と、諸先輩方や研究仲間のご助言、ご支援の賜物であり、多くの方々に支えられてきたことに心より感謝申し上げます。

今後は、このご恩に報いるためにも、研究者同士が「並び」「つながり」「動き」たくなるような学内外の環境づくりに努めたいと考えております。引き続き、皆さまのご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



## 学生サークル表彰1 ヒコーキ部 (鳥人間コンテスト出場)

前代表 雑賀 正大

静岡大学ヒコーキ部は、2001年発足以来、琵琶湖で行われている鳥人間コンテストへの出場と記録更新を目標に活動しています。

ヒコーキ部では、浜松キャンパスを拠点とし、人力飛行機の製作・運用を行っています。人力飛行機を自らの手で設計・製作することはもちろん、部員が一丸となって、自分たちが作った人力飛行機が飛ぶために、様々な工夫や努力を重ねています。また、多く他大学のチームや社会人チームとの幅広いネットワークが活動の大きな支えとなっています。

弊部は7月下旬に行われました鳥人間コンテスト2025に出場いたしました。2019年大会以来の6年ぶりの琵琶湖の空への挑戦となりました。学内外問わず、様々な方々の支えがあったからこそ、出場することができました。

鳥人間コンテスト2025では、悔しい結果となってしまいましたが、来年の「鳥人間コンテスト2026」への出場、そして記録更新を目標に日々活動に励んで参ります。

今後とも静岡大学ヒコーキ部を応援よろしくお願いします。



## 学生サークル表彰2 ロボットファクトリー 静岡大学ロボットファクトリーが7年ぶり2度目のレスキューロボットコンテストでの優勝

代表 宮崎 陽

私達ロボットファクトリーは、8月9日(土)・10日(日)に神戸市で開催された第25回レスキューロボットコンテストにおいて、7年ぶり2度目となるレスキュー工学大賞(最優秀賞)を受賞しました。また、同時にベストパフォーマンス賞も受賞しました。

この大会は、遠隔操縦型のロボットを用いて被災した街から要救助者(ダミヤンと呼ばれる人形)を救助する技術を競うものです。ベストパフォーマンス賞は、その名の通り競技で最も得点が高かったチームに送られる賞です。またレスキュー工学大賞は、競技得点だけでなく、ロボットのアイデアや技術、チームの活動なども総合的に審査された上で贈られます。今年は開発メンバーの数が例年よりも少なかったのですが、その分、メンバー一人ひとりが自分の役割に精一杯取り組んだからこそ得られた結果だと感じています。

来年もこの調子で、引き続き頑張っていきたいと考えています。皆様、応援のほどよろしくお願いします。



## 学生サークル表彰3 探検部ラフティングチーム (世界大会U23部門3位)

代表 小池 悠太

私たち探検部は、登山、沢登、ラフティング、洞窟探索など多岐にわたる活動を展開しており、自然を楽しみ「やりたいことを形にする」ことを大切に、日々活動しております。

この度、その活動の一環であるラフティング部門よりご報告させていただきます。

3年生4名の部員が(WRF Junior & U23 World Rafting Championship 2025)への出場権を獲得し、静大探検部史上初となる世界大会出場を果たしました。

異国の川で各国から集まった選手たちとレースをした結果、以下のような成績を収めることができました。

U-23のミックスカテゴリー

- ・RX1位
- ・ダウンリバー3位
- ・スラローム5位
- ・総合3位

この貴重な経験を糧に今後も活動を続けてまいります。この場をお借りして、日頃より温かいご声援をくださったすべての方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

また、12月には別の世界大会(IRF)のオープン男子およびU-23男子カテゴリーへの出場も決定しております。

これからもさらなる飛躍を目指して日々精進してまいりますので、皆様の熱い応援をどうぞよろしくお願いいたします。



## 第3回 医工情報連携ワークショップに参加して

機械工学科 瀧 冬華

8月22日(金)、本キャンパスで「第3回 医工情報連携ワークショップ」が開催されました。このワークショップは、静岡大学の工学部・情報学部と浜松医科大学の医学部・看護学科の学生が交流し、医・工・情報の連携による新たな可能性を探ることを目的としています。今回のテーマは「〇〇が食事やスポーツなどを通じて健康になる環境づくり」でした。はじめに両大学の教授から「健康寿命を延ばす食事や運動の話」や「光技術で見守る、わたしの運動と健康」などの講義が行われ、健康や日常生活のあり方について改めて考える良い機会となりました。

グループワークでは、「〇〇」というペルソナを設定し、その人物が健康を維持・向上するための課題と解決策を検討しました。異なる専門分野の学生が協力し、意見を出し合う中で、互いの視点の違いが新たな発想につながることを実感しました。初めは少し緊張感がありましたが、議論を重ねるうちに会話が弾み、一体感を持って取り組むことができました。

施設見学では、医・工・情報の連携研究の紹介やVR体験、学生フォーミュラチーム「SUM」やヒコーキ部の活動紹介が行われました。普段見ることのない設備に触れ、浜松医科大学の学生の皆さんも興味深く見学しており、互いに良い刺激を受けました。

交流会では、先生方や他学部の学生と語り合うことができ、専門を越えて学び合う貴重な時間となりました。今回のワークショップを通して、異分野の連携の大切さを改めて感じるとともに、今後もこのような交流が続き、より深い連携へと発展していくことを願っています。



## 2025浜松キャンパスホームカミングデー報告

浜松工業会 理事長 立岡 浩一

2025浜松キャンパスホームカミングデーは、11月8日(土)、浜松キャンパスS-Port 3階大会議室にて開催されました。河合浜松工業会会長、福田工学部長、小西情報学部長、青木電子工学研究所長よりご挨拶を頂き、続いて福田工学部長より「浜松キャンパス100周年記念事業実行委員会の活動報告」がありました。

特別講演では、写真家・水越武様より「日本列島の自然」と題して、琉球列島、屋久島、穂高、富士山、尾瀬、知床で撮影された珠玉の写真とともに、日本列島を南から北へ、多様で豊かな自然の姿をご紹介いただきました。会場の照明を落とし、鮮やかな映像に包まれたひとときは、まるで大自然の中に身を置いているようでした。撮影時のエピソードや自然との向き合い方にも触れられ、写真に込められた深いメッセージが伝わってきました。日本列島の自然の美しさと、それを見つめる心の大切さを改めて感じる講演でした。



## オープンラボ棟完成

静岡大学電子工学研究所 所長 青木 徹

2025年3月、電子工学研究所の一部を建て替えた新しい施設「オープンラボ棟」が完成しました。この建物は、豊橋技術科学大学との連携による「地域中核・特色ある研究大学施設整備事業」の一環として整備されたもので、センサ技術や光・電子デバイスの設計評価など、半導体を中心とした研究を進める拠点として位置づけられています。

オープンラボ棟は、電子工学研究所や光創起イノベーション研究拠点とつながり、一体的に利用できる設計になっています。内部には、15m立方の大型不可視光照射実験室をはじめ、共同利用機器分析センターの新エリア、オープン研究員室やカジュアルミーティング室、名誉教授室など、多様な研究活動を支える施設が整っています。

長い建設期間中、工学部や情報学部をはじめ、多くの皆さんにご理解とご協力をいただきました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。これからも先生方や学生の皆さんと力を合わせて、学問や技術の垣根を越えた研究と人材育成を進め、浜松から世界に発信できる成果を生み出していきたいと思いをします。



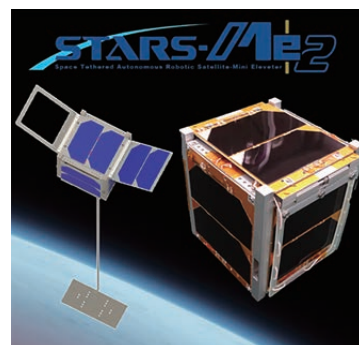
## STARSプロジェクト

機械工学科 能見研究室 松崎 優作

能見研究室では、STARSプロジェクトと題し、テザー(ロープ・ワイヤー・テープ状の構造物)を利用した人工衛星を開発・運用することによって、宇宙ゴミ(デブリ)対策や宇宙エレベータを見据えた宇宙実験に取り組んでいます。

そのプロジェクトの一環として2025年9月19日に、能見研究室開発の「STARS-Me2(愛称:蓬萊)」が国際宇宙ステーション(ISS)から放出されました。本機は、約10cm立方の1UのCubeSat規格に属する超小型衛星です。約10m程度のテザー(物を測るメジャー)の伸展に伴う衛星進行方向の面積の増加によって大気抵抗を増加させ、軌道降下の促進を実証します。この実験により、衛星を早期に大気圏へ再突入させ、宇宙ゴミ増加防止技術の実証を目指します。

現在、静岡大学浜松キャンパス地上局では、非常に微弱な電波を受信できておりますが、STARS-Me2からの電波と断定には至っておりません。原因分析と対策に実施により、宇宙ゴミ対策に向けた技術実証を目指します。



## 日本技術者教育認定機構(JABEE) 認定プログラムの継続廃止について

機械工学科・化学バイオ工学科

拝啓時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より本学の教育活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本学機械工学科および化学バイオ工学科では、これまで JABEE(日本技術者教育認定機構)認定プログラムとして教育課程を運営してまいりました。

しかしながら、近年の大学教育を取り巻く状況の変化や、JABEE認定維持費の大幅な値上げ、さらに各学科独自の特色ある教育改善を推進する必要性を踏まえ、学内での協議ならびに学生への説明会を経て、令和7年度をもってJABEE認定プログラムの認定を継続しないことといたしました。

なお、本決定により授業内容や卒業要件に変更は一切ございません。また、工学部全学科共通の外部審査システムを新たに導入し、従来以上に体系的かつ国際的視野を持った教育を推進し、学生が社会で活躍できる能力を育成してまいります。

今後も教育の質を高め、学生の成長を最大限に支援する体制を整えてまいります。保護者の皆様には、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### Webアンケートのお願い

工学部の様子をより的確にお知らせし、紙面の充実を図るためにWebアンケートを実施いたします。  
静岡大学工学部ホームページ>>工学部ニュースレターはまかぜのページ上の「はまかぜアンケート」よりご意見をお寄せください。  
<http://www.eng.shizuoka.ac.jp/mc/1/70.html>

ご意見お問い合わせは下記をお願いします。

〒432-8561  
浜松市中央区城北3-5-1  
静岡大学浜松総務課副課長  
(工学部担当)  
E-mail  
[engkohoh@adb.shizuoka.ac.jp](mailto:engkohoh@adb.shizuoka.ac.jp)